

26PB-am187

早期関節リウマチ診断における新規疾患活動性評価 MBDA スコアの有用性の検討
○皆上 翔太郎¹, 新穂 彩¹, 浅山 りん¹, 城田 愛理¹, 宮川 千珠¹, 伊藤 萌子¹, 樋浦 一哉², 竹田 剛³, 渡辺 泰裕¹, 江川 (岩城) 祥子¹ (¹北海道薬大, ²網走厚生病院薬, ³北海道中央労災病院せき損センター)

【目的】関節リウマチ(RA)の疾患活動性評価方法として DAS28 (disease activity score-28)などが使用されているが、患者の主観や医師の技量が影響することから、客観的な評価方法が求められている。近年、血清中の 12 種類のタンパク質を利用する MBDA (multi-biomarker disease activity)スコアが新たな疾患活動性評価法として報告されたが、我が国ではほとんど報告がない。今回我々は、MBDA スコアの早期 RA 患者診断への有用性を DAS28 と比較検討した。

【対象・方法】関節痛を主訴として、発症から 6 ヶ月以内に帯広厚生病院に来院した未治療の診断未確定関節炎(UA)患者 (n=96)を対象とし、このうち 47 名が、その後 RA と確定診断された。患者初診時、3 ヶ月後、6 ヶ月後に血液を採取し、12 種類のバイオマーカー (MMP-1, MMP-3, IL-6, TNFR-I, VCAM-I, EGF, VEGF-I, YKL-40, leptin, resistin, CRP, SAA) を ELISA 法で測定した。アルゴリズムで 1-100 の MBDA スコアを求め、DAS28 と比較した。

【結果】初診時において、UA 患者でその後 RA に進行した患者群の MBDA スコアは、健常者、変形関節症や線維筋痛症に進行した患者の MBDA スコアと比べ有意に高かった。確定 RA 患者では、MBDA スコアと DAS28 には相関性があるとされているが、今回、RA に進行した患者では、早期においても DAS28 と相関性がみられた。

【結論】RA に進行した患者において、初診時 MBDA スコアは他疾患と比べ有意に高い傾向が見られたことから、カットオフ値を求めることができるならば、今後の RA 早期診断に応用できる可能性が示唆された。現在、治療経過と MBDA スコア、DAS28 の関連について解析中である。